

町おこしに生かしたい 周藤弥兵衛銅像の除幕式

松江・八雲



周藤弥兵衛の銅像を除幕する関係者

松江市八雲町を流れる意宇川を江戸時代に開削した周藤弥兵衛（1651〜1752年）の功績をたたえる銅像の除幕式が1日、同市八雲町日吉の意宇川沿いであり、関係者や住民約170人が祝った。

銅像は高さ2・65メートル、幅2・8メートルで、意宇川をふさいでいた岩山をのみとつちで開削する姿を表現している。財団法人・人間自然科学研究所（小松昭夫理事長、松江市乃木福富町、小松電機産業内）が制作し、地元の周藤弥兵衛顕彰会（矢野秀行会長）に寄贈した。

「水の目」に合わせて除幕式を行い、矢野会長（60）が「人々のにぎわいと町おこしに生かしたい」と謝辞。小松理事長（70）は「八雲の地から平和に向けた新しい流れを生み出したい」と述べた。この後、2人や地元の保育園児らが除幕すると、参加者から大きな歓声が上がった。

銅像は現在、仮設置されており、今後、別の場所に置く計画。